

全科協ニュース

1983年1月1日発行
(通巻第69号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園
国立科学博物館内

☎ 110
Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容：◇年頭にあたって ◇オーストラリアのビクトリア科学博物館 五島プラネタリウム 小林悦子
◇モスクワ・レニングラード・パリの人類学博物館 国立科学博物館 山口 敏 ◇航空室の展示
替え 交通博物館 ◇自然展示室を開室——豊かな沖縄の自然を紹介 沖縄県立博物館 ◇全科協
北から南から 20年の科学館勤務を終えて 平沢康男 ◇理工系学芸員の養成 東京農工大学繊維
博物館 ◇プラネタリウム・話題の選択について 五島プラネタリウム ◇会員館園の消息 プロ
ペラ双発機の展示 交通科学館 ◇特別展「むかしの天体観測」を開催 生駒山宇宙科学館 ◇開
館20周年を迎えて 市立名古屋科学館 ◇会員館園の紹介 栃木県立博物館 ◇会員館園の消息

年 頭 に あ た っ て

全国科学博物館協議会 理事長
諸 澤 正 道

全科協の皆さん、明けましておめでとうございます。

私は昨年(1982)の10月、図らずも国立科学博物館長となり、福田繁前理事長のあとを受け継いで、全科協の仕事に携わることになりました。

全科協は、科学博物館が相互の連絡を密にし、博物館事業の振興を図ることを目的にして、昭和46年に会則などを定め、再発足してから10年を経過しました。その間各種の活動を実施し、機関紙は「全科協ニュース」を定期的に発行して、会員相互の情報交換、研究成果の紹介などを行ない、事業面では、科学博物館が当面する諸問題をとりあげ、これを解決する効果的、実際的な方法を追求する専門的な「事業研究会」を毎年開き大きな成果をあげております。会員館園の標本の充実整備では、特別天然記念物ニホンカモシカの入手希望をとりまとめ、配布斡旋すること等を行っております。これ等の諸活動は、これまでの実績をさらに積み重ねて継続し、科学博物館の発展充実に尽力したいと考えております。

新たな事業としては、これまでに要望のありました海外科学系博物館の視察研究を、本年秋に実施する予定で計画をすすめています。世界に誇るドイツ

博物館、ヨーロッパでは最も新しいスイスのテクノラマ館、古い伝統と貴重な標本を数多く所蔵する大英博物館の自然史部門など、科学博物館の職員として、是非一度は見学しておきたい施設です。多数の参加を願っております。

近年、科学博物館に対する関心はますます高まり、各地で科学系博物館設立の準備が進められており、今後ますます増加する傾向にあります。国民の要求が多様化する傾向の社会において、科学博物館の重要性が認識され、それに伴ない内容面での質的な向上を図らねばなりません。そのためには、全国の科学博物館がより一層力を合わせて社会の要望に対処することが肝要です。そこに全科協の存在意義があらうかと思ひます。

また、本年の夏には3年に1度開催される第13回 ICOM総会がロンドンで開かれます。時代の移り変わりに対応した博物館の当面する諸問題が提示され討議されることと思ひます。このような機会に科学博物館の現状をつぶさに見つめ、認識を新たにすることも、また必要なことではなからうかと存じます。

加盟館園の発展充実により一層の努力を重ねたいと思ひますので、皆様の御協力をお願いします。

年 頭 に あ た っ て

新 年 お め で と う ご ざ い ま す

宮崎大学農学部農業博物館長 斎 藤 勇 夫

当農業博物館のあり方を明確にし、その運営を円滑にするために、農業博物館規程ができました。この規程に基づいて組織の強化と内容の充実をはかり、1日も早く省令施設になるよう努力したいと思います。

標本の保管・展示のほか、これから図書文献の整備、視聴覚教育の推進に努めるとともに、農業博物館ニュースを発行して、広報活動にも力を入れたいと考えています。

北九州市立児童文化科学館長 本 村 義 雄

7月7日の七夕の空は、口径200ミリの「クーデ型屈折式望遠鏡」で観賞できそうです。すでに、6mドームは完工して、本体を迎え入れるまでになりました。

名称も、「北九州市立児童文化科学館」と改めました。昨年12月25日に4階建て棟の落成式を催したところがあります。

当面の展示テーマ「科学をたのしもう」に沿った計画の具現化に、職員一丸となって、取り組んでいきたいと念じています。

福岡市立少年文化会館長 長 澤 清

昭和58年の年頭に当たり、皆様の御発展を心からお祈り申し上げます。

この新年は、当館にとって大きな意味を持っています。科学部門における展示面積を大幅に拡充するため、昨年からの改修工事をおこなっておりますが、今年は科学展示品の充実整備をおこない、秋には科学文化会館としてオープンします。

館員一同手さぐりの状態で展示設計に取り組んでおります。全科協会員の各先生方、館員の方々の御指導をよろしくお願いいたします。

愛媛県熱帯植物園長 窪 田 義 直

当園は現在和洋植物でジャングルになっているので、今は珍しい品種だけ集めております。

遠路おいでいただいた方や知名の人には、園内を御案内した後で応接室にお通し、長い年月をかけて集めた教授、俳人、歌人、歴代の知事、代議士、長官、大臣、総理の書画、お土産に頂いた諸外国の民芸品、官公庁や各学校からの感謝状や花器類並びに珍しい品をお見せしております。今後も機会があれば、どしどしと収集に努力したいと考えております。

生駒山宇宙科学館長 濱 根 洋

当館は来年で開館15周年を迎えます。中国や日本では古くから3という数字やその倍数は大切な数字とされています。石の上にも3年、3人寄れば文殊の智慧など、つまり、宇宙の法則——太陽・地球・月の関係を大切にしたい証拠でもあるのでしょうか。そこで、15年目を迎える前哨戦の意味もこめて、さらに、学校教育・社会教育・家庭教育の連けいを深める事業や特別展を開催し、宇宙や星空を通した対話の復活を旨として努力したいと考えています。

市立名古屋科学館長 佐 藤 知 雄

人間の尊厳性を強調したい

1983年を迎え21世紀が間近に迫ってくるのを感じる。世界の情勢を見ても、日本の情勢をみても、刻々と変化しつつあることが感じられる。科学技術の世界は殊にその変化が著しい。このめまぐるしい科学技術の進歩に対応して精神文化の面もまたおくれをとってはならない。特に科学博物館としては、物質文明に眼を奪われて、人間の尊厳、生命の威厳を忘れないよう、十分注意を払うべきである。

先進諸国の科学館を見て歩くと、生命の科学に対し非常に力を注いでいることが感じられ、この点では日本の科学博物館はややおくれているように思う。

岐阜県博物館長 吉 本 幹 彦

常設展示を充実し、来館者に新たな関心を持っていたくため、実物資料並びに複製資料を効率的に購入し、一方、特別展も「岐阜県の考古遺物」、「ふるさとの川“長良”」、「郷土の生んだ先覚者」（いずれも仮称）等意欲的に取り組んでいく考えであります。

さらに、開館10周年を3年後にひかえて、人文、自然両部門の常設展示室を今後いかに整備充実していくかを、県が策定する第4次総合計画との関連において、新しい年は考えていかなければと思っています。



年 頭 に あ た っ て

富山市科学文化センター館長 長 井 真 隆

早月川^{かわら}の礫が傾斜地に白う見える

ごまの花が咲いている

雪小屋はだいぶ低くなっている

村の子どもらは巴旦杏の匂いにする

この詩は、田中冬二の「菩提寺のある村」の一節である。雪小屋というのは、村の人たちが冬に築いた雪山のことだ。製氷技術が発達していなかった昭和の初めころの情景である。近くの漁師たちは、夏遅くまで雪を買ってきた。冬になると、雪集めでにぎわった村人たちを思い出す。

時代は、製氷から冷凍へと急激に変わった。雪小屋は過去の懐かしい思い出となってしまった。だが、当時は雪国の優れた文化である。文化とは、時代を越えて感動を呼ぶものだ。

新潟県立自然科学館長 関 昭 一

先進諸館の御指導により、一昨年11月に開館した当館は、お蔭様で、現在まで約36万人の入館者を迎えることができました。

本年は、1年間の実績の分析検討の上にたって、広報活動の充実、特別展の開催、工作教室等の教育普及活動に力を注いでまいりたいと考えております。

また、秋には全国博物館大会が、当県で開催されることとなりますが、多数御来県くださるよう、お待ちいたしております。

神奈川県立青少年センター館長 小 川 勇

当センターは昭和37年に開館して以来20周年を迎え、これを記念して昨年11月7日に記念式典を、11月2日から9日にかけて数々の記念行事を行いました。展示場では一般公開事業のほかマイコン教室、アマチュア無線公開実験等を行い来館者の好評を得ました。

展示場の改造事業は、昨年3月以来検討を続けている改造の基本構想づくりを基に、ひろく各界の御意見を拝聴し、よりよい青少年のための科学展示場の実現を目ざして、本年も引き続き事業の計画を進めてまいります。また、5月の上旬頃には、展示場の入場者が開場以来500万人を超える予定です。これからも青少年の健全な育成を目標に職員一同努力してまいりたいと思います。

神奈川県立博物館長 田 中 雅 夫

新しい年を迎えましたが、経済情勢の低迷が続く中で、今年は従来にも増した館の緊縮運営を行わざるを得ない状況にあります。

私共の館は、明治37年に完成した旧横浜正金銀行本店の建物を使用しており、国及び県の重要文化財指定を受けるなど、明治期の重要建築物として知られているものです。ところが、この建物は知っていても、中味が博物館であること、更には県立博物館の存在そのものを知らない人があまりにも多いことに驚かされ、そこで今年は創意を集め、費用のあまりかからないPR方法を実施していきたいと考えております。

東芝科学館長 蜷 川 次 雄

当館は、開館以来コンパニオンによる全館御案内制と新技術のわかりやすい展示法によって、御来館者の満足度と理解度の維持、向上に努力して参りましたが、本年は引き続きこの目標に挑戦いたします。

即ち、新展示の面では他館では見ることのできない先端技術を積極的に導入することにより、来館者の知的関心に応える一方、コンパニオンが対応しきれないフリー来館者に対しビデオ解説その他を充実して参りたいと思っております。

科学技術館長 久 保 俊 彦

近年諸分野の科学技術が驚異的な進展を遂げております。特にメカニズムとエレクトロニクスを融合したメカトロニクス技術の粋を集めた産業ロボットの進歩には、目を見張るものがあります。科学技術館は、こうした新しい領域の科学・産業技術を普及するために、ロボット展示の企画を進めてまいりましたが、今年3月には、新展示としてオープンする予定になっております。

さらに、科学技術のトピックスを来館者に紹介するため、特別展を随時開催して市民のニーズに答えていくつもりであります。

また、全国サイエンスクラブ活動のセンター館としての役割を果たし、青少年の創造性の育成に努めていく所存であります。

交通博物館長 三 木 正

本年もより特徴のある専門博物館として、存在価値を一層高めるよう努力したいと存じます。

昨年より展示を刷新して参りました航空部門の公開に引き続き、本年は鉄道部門の実物資料の可動展示と鉄道記念物の復元整備、船舶室の展示も模様替えをする予定です。

これらの実施に当たっては全職員の叡知を集め、一人でも多くの方に満足 of 戴けるよう、充実した内容の博物館になるようにしたいと存じます。

 年 頭 に あ た っ て

サンシャインプラネタリウム館長

堀 家 邦 男

当館は、今年の10月5日で満5周年を迎えます。

今年も、好評の物語形式の番組を昨年と同様に4本制作する予定です。

また、昨年より実施している特別投影“星空散歩”、“星と音楽の語らい”の番組も、さらに充実させてゆきたいと考えております。その他にも、恒例となりました“星空寄席”、各種の講演会、天体観望会も開催します。

これらの事業計画により、昨年は32万人の入館者を迎え、8月には、開館以来100万人目の入館者も迎えることができました。今後も、こうした大勢の入館者の期待に応えるため、よりよい番組企画を考えてゆく所存でございます。

通信博物館長 田 中 貢

入館者数の増加が、博物館を合目的に運営していく上での私たちの大きな関心事であることは言をまたないところです。このため、当館では、「お客さまサービスに徹しよう」を重点施策の1項目に掲げて、過去1年間いろいろと施策してきました。アンケート調査によるお客さまのニーズの把握、招待券の配布先、配布方法の見直し、常設展示や特別展の在り方の検討等々がその主なものです。

新しい年を迎えて、これまでの施策をより強力に推進したいし、また、当館の特性を生かしたPRにも力を入れていきたいと考えています。

天文博物館五島プラネタリウム館長

鎗 木 政 岐

昨年に引き続き、本年も夏休みを中心に、小規模ではあるが、魅力ある特別展を計画したい。特に情報の収集に徹し、投影すなわち、ソフト面に反映させ新鮮味を出すよう努力したい。

新展示は最近、英国より古い望遠鏡を入手したので、これを中心に実施したい。

電気通信科学館長 白 根 禮 吉

本年は多忙の年になりそうです。高度情報通信システム（INS）形成の一貫としてのモデルシステムの展示計画が電電公社によりすすめられており、当科学館もその一翼をにない、わかりやすい展示をめざして今年からその準備に着手します。

また、本年は世界コミュニケーション年にもなっており、当科学館も例年の特別展の中で参加することを考え

ています。

その他恒久展示のうちテレマ（総合通信網）の改装の2期工事、コンピュータ・コーナーの大幅改装が行われる予定であり、移動展の実施も前年に引き続き本年も積極的にすすめていくつもりです。

東京都児童会館長 柏 木 和 子

当館は、昭和39年開館以来、都立唯一の館として、児童に親しまれ、内容の充実にも蓄積を重ねてまいりました。本年は、さらに、障害児童にも利用しやすく、また中学・高校生の要求にも応えられるよう、施設の改修を含めて対応に努めたいと考えています。

新しい遊びとして、マイクロコンピューターを設置し、児童が自由に操作して楽しんでいます。

これからのマイクロエレクトロニクス時代に備えて、機械・技術になじみ、かつ、豊かな人間性を涵養する遊びの開発と場の提供に努力する所存です。

東京農工大学工学部附属繊維博物館長

金 子 六 郎

「とりで」としての博物館

年の始めにあたって平素の皆様のご御友情に感謝いたします。今年は厳しい周辺の状況を考えると博物館にとっても辛い年になりそうです。けれど一方では生涯学習を望む人たちの数は急増しているわけで、これらの人々を結び拠点として、「とりで」として博物館を守っていかなばならぬと思っております。館員一同、当館独自のサークル活動の人たちと力を合わせて「とりで」を守り抜く覚悟しております。全科協の館園の皆様、共に元気でイノシシのように頑張らしましょう。

船の科学館長 笹 川 良 一

四面を海に囲まれたわが国が、昔から海と船から多くの恩恵を受けつづけていることや、貿易や港湾の役割の重要性、海運や造船、日進月歩する海事科学、海洋開発について、正しく理解されることを念願して船の科学館が生まれ、ことしは9年目を迎えます。開館以来、宇宙博の開催、南極観測船「宗谷」や「二式大艇」等の実物展示も行なうなど、内容の充実にも努めてきました。いま私たちは、次代を担う子どもや若ものたちに、大きな夢と希望を与え、科学する心と豊かな創造力を育成することが一番大切なことだと考えています。ことしは、これに専念し、青少年が身近に感じ、参加できる仕組みや工夫を考え、内容の充実をはかる所存です。

年 頭 に あ た っ て

労働省産業安全研究所長（産業安全技術館）

川 口 邦 供

産業安全技術館は、当研究所附属施設として、産業安全に関する研究成果を主体とする展示、実演装置の導入等を実施することにより、広く安全技術に関する知識の啓蒙・普及に努めてまいりましたが、昨今の技術革新への対応も含め、本年早々に、「安全活動コーナー」を拡張するとともに、その展示パネルの一新をはかることにしています。また、人間動作コーナーには、人間の制御特性のうち修正動作能力をテストする制御動作特性実演装置を新たに導入する予定です。

千葉市郷土館管理事務所長 近 田 衛

当館は4月で満16周年を迎えます。今年は博物館に移行し、名実共に充実したいとがんばっています。

念願の収蔵庫（550㎡）も、3月に完成し、新たな資料収集にも努力します。一昨年に更新したプラネタリウムは、一般投影の他、学校教育の場でも利用され、人気を集めています。今後は天文関係の展示も整備しようと考えています。また昨年より始めた「小・中学生宇宙展」には、今年も多くの作品が寄せられ、職員一同うれしい悲鳴をあげています。作品の中にみられる子供たちのユニークな発想に驚きをおぼえるとともに、子供たちがつくる次の時代がまちどおしくも思います。

川口市立児童文化センター館長 豊 田 四 郎

開館22年目を今年11月に迎えることになります。懸案だった郷土史関係展示の改善充実も、ほどなく終える見込みで、続いて「太古の世界」のテーマ展示の充実を図っていきます。常設展示は館活動のワン・ステップとしてとらえていますが、次の段階の児童生徒の直接参加である特別行事の展開について、地方の小規模館ながら、せいっぱいの動きをしてみるつもりで、スタッフそれぞれの持ち味を生かした事業を組んでゆきたいと考えています。

アリタキアーボレータム園長 有 瀧 龍 雄

本園は、1927年アーボレータムとして発足以来既に半世紀余で、日本、アジア（中国その他）、ヨーロッパ諸国、オセアニア、アメリカ合衆国等の植物で種子又は苗から成長した貴重なものが多数あるので、これらの保護育成に一段と意を用い、また、解説板、園路、休憩施設等を充実させ、来園者の観察、研究に一層便利になるようにしたい。

また、本園の重要事業である国内及び世界各国の植物

園、アーボレータムその他植物研究機関とのリストによる植物種子、生植物などの交換を、さらに有意義なものとしたい。好評を博している春秋の植物に関する講習会や観察会等も、本年は回数を増して聴講者の希望に沿いたい。昨年新設の管理棟も園の機能を高めるよう充分活用したい。

農林水産省蚕糸試験場長 間 和 夫

今日、わが国の農業はきびしい環境にたたされておられ、蚕糸業もその例外ではありません。当場は桑から絹に至るまで一貫した研究を実施していますが、特に当面の重点目標を、地域に適応した高能率養蚕技術の確立・良質な用途別生糸の効率的生産技術の確立・新しい絹衣料素材の開発と用途拡大・長期的展望に立った革新的技術の創出につとめ、わが国の農業および蚕糸業の安定に寄与することに努力しております。また、国内のみならず世界の蚕糸技術についても指導的な役割を果たし、世界の蚕糸業の発展に寄与したいと考えておりますので、御支援をお願いいたします。

斎藤報恩会自然史博物館理事 斎 藤 温次郎

当館は財団の附属博物館として、本年は開館50周年を迎えることとなります。幸いに未完成であった動物関係の展示も今春完成し、一応の常設展示もとのえられるのを期に、この半世紀の歴史を踏み台とし、新しい自然史系の博物館として、人間社会と大自然のかかわり合いを、展示を通してみつめ、自然の貴重な遺産を保存し、正しく継承できる新たな年としたいと思っています。

秋田大学並山学部附属鉱業博物館長

能 登 文 敏

昨年は10月に南極展を開催したが、今年は現在原稿執筆中である展示品の解説書が印刷発行される予定である。また引き続き地熱関係資料を収集整備するほか、展示品のテープによる説明も計画している。

これまでの研究博物館としての性格のほかに、小中高校生にもアピールするような、親しみやすい博物館へと脱皮することも心がけたい。



年 頭 に あ た っ て

岩手県立博物館長 板 橋 源

開館して2年と3か月。この間におきます各位の御教導に対し、厚くお礼申し上げます。

当館は二重展示方式を採っており、総合展示室のほかに、学問の分野ごとに展示されている分類展示室があります。ここは、展示資料が多く説明は少なく、来館者が自分のレベルに応じた能動的学習をすることを願って構成してあります。今年は、この展示室が学習の場として十分機能を発揮できるよう努めたいと考えております。

旭川市青少年科学館副館長 藤 沢 秀 光

今年は開館20周年に当たりますので、この機会に天文館（展示、プラネタリウム、天文台）を新設したいと数年来画策していましたが、とうとう日の目を見ませんでした。そこで、せめて既存展示の大幅更新を求めている

ところですが、これすら画餅におわるかも知れません。それでも、ささやかながら特別展を2回ほど実施しようと準備を進めていますし、10月上旬には旭川市内で発明クラブ全国大会が開催されることになっています。

釧路市青少年科学館長 寺 島 敏 治

東経144°からのメッセージ

東経144°24′、北緯42°58′、日本国内で東経度数最大の当館より一言。1月7日より16日まで第6回特別展「世界をつなぐ電波展」を開催します。内容は、①アマチュア無線展、②公開交信（世界にむけて）、③ワイヤレスマイク製作教室（工作教室）、④講演会（放送と電波）、⑤科学ビデオのつどい（電波）を、期間中それぞれ実施します。開館20周年記念第7回特別展「飛行機」（仮称）は6月より50日間、開催する予定です。今年もよろしく。

〔海外の博物館〕

オーストラリアのビクトリア科学博物館

天文博物館五島プラネタリウム 小 林 悦 子

朝の開館を待って入ったエントランス・ロビーに、西部劇映画でおなじみのクラシックなタキシードとロングドレスの人物が、私たちを迎えてくれた。街路樹の葉も黄ばみはじめた初秋3月末の南半球はオーストラリア、メルボルン市（南緯38°）のビクトリア科学博物館である。私たちの後からは、小学校低学年とおぼしき、かわいい子供たちが賑やかに入ってきた。じつは、さきの古典的ファッションの人物は、この子供たちを待ち受けていた先生方だったのである。

やがて案内された広間には、あちこちに4、5人ずつの男女のグループごとに、1人の先生を中心に学習をしていた。小さな黒板に書かれた国語（もちろん英語）の綴りを、ヒザの上の石板に書き写しているグループや、馴れぬ手つきで針を運ぶ男の子、石けんづくりの女の子は早くシャボン玉を飛ばしたいようなうれしそうな顔をしている。指導しているのは館から依頼された市内の小学校の先生方で、すべてを自ら作り出さねばならなかった、開拓時代の人々と同じ素朴な体験学習をさせているのだそうである。先生方の服装もムードを盛り上げるのに大いに効果があり、子供たちも楽しそう。この広間は一般の見学者はオフミットで、子供たちが学習に没頭できるように十分なスペースと環境が用意されている。

このビクトリア科学博物館は、ビクトリア州の州都メルボルンの中心街に近い、スワンソン通りに面した古い大きな建物で、内部はビクトリア国立図書館に続き、図

書館入口はラッセル通りに面している。メルボルンは北部のシドニーとともにオーストラリア開拓発祥の地で、街は重厚な英国調のたたずまいを見せ、緑が多く人の心をなごませてくれる。

博物館内部は天井が高く、入館者も少ないために、どこも非常に広々とした感じである。中央のギャラリーは15m×10mはあろうかという広い板張りの床で、上部は吹抜きになっている。その周囲にセクション別の展示室があり、また、ギャラリーを見下ろすように2階にペラ



体験学習。
開拓時代の服装
の先生と一緒に
石けんをつくっ
ている子供たち

ンダ風展示場が設けられている。その2階の一角には、オーストラリアで発見採集された隕石やテクタイトの数々が展示されている。

全般の展示はビクトリア州とは限らず、オーストラリア産の動植物および理工技術に関係した物が集められ、いくらかのレプリカもあるが、大部分は実物展示である。しかし、何せ歴史の浅い国であるから、数は多くない。1910年に初めて飛んだオーストラリア製の第1号飛行機とか、オーストラリア初製作の1896年製の自動車もある。また1770年にシドニーの南、ボタニー湾に上陸した、キャプテン・クックの船の錨は、200年後の1971年に海中から発見されたもので、生々しい歴史を感じさせる。なおラッセル通りの博物館の外側には、1885年から1940年までこの街の中を走っていた、軌条車第1号もきれいに化粧されて展示してある。

パプアニューギニアやアボリジニ（オーストラリアの原住民）関係のものはさすがである。彼らの日常生活の民具、儀式用の道具や衣服、飾り物などは、我々には珍しく見応えがある。狩猟用のブーメランにしても、狩りの目的によって大きささまざまな物があるのを知り、買い求めた土産のブーメランが色あせて見えたものである。また、薄く剥いだ木の皮（0.8m×1.5m位）に描かれた、カンガルーやワニの姿は、まるでレントゲン撮影のように、骨格や内臓まで克明に彩色されていて感心する。

さらにかつてのゴールドラッシュ時代に栄えた近くの金鉱山の模型といっしょに、当時使用されていた精密な天秤ばかりや分銅、そして金塊などは、人々の興味をそそる。そしてもう一つの特色あるコレクションは、古代ギリシャ・ローマの時代から現代に至る、各国各種のコインの数々である。今まで写真でのみ知り得なかった、神話の神が刻まれた金・銀のコインを直接目にすることができる。ただし日本のコインは1個も無かった。

さて新旧とりどりの展示のなかで、天文関係は、中国やヨーロッパの古い時計、日時計や、歴史的な望遠鏡のレプリカ、またフーコー振子などがある。新しい天文知識は付設のプラネタリウムの使用によっている。プラネタリウムのドームは直径10m、座席は120名位で、投影機は日本の五藤光学製中型機である。水・金・土曜日に公開され、1日1～2回で、土曜日は3回投影される。解説はマニュアルで、一般投影は男性のプロフェッサー1名、子供向けの投影は2人の女性解説者が担当している。解説内容は星座の案内が主なようである。

プラネタリウム入口で簡単なリーフレットや星座早見の小さな売場があったので、求めようとしたら、遠来の見学者を歓迎してくれたのか、係りの婦人がプレゼントしてくれた。

全体としての印象は、ヨーロッパのような永い歴史の



オーストラリアの隕石

遺産には乏しく、といってアメリカ式の現代性も一部の展示法を除いては無い。しかし、十分なスペースがあるので、非常にゆったりと見学できるのでうれしい。また地下には広い収蔵庫があって、展示品の製作や修理をするワークショップ、パネルやポスターを作成するデザイン室もあり、それぞれ専任の技術者やアーティストが数人ずついて、博物館としての機能は可能性に富んでいる。「大きいことはいいことだ」とは常に正しいとは思わないが、日頃、狭い展示スペースに泣いている私立博物館の身には、大変うらやましかった。

オーストラリアの人々は明るく開放的で、誰にでもたちまち心を開いてくれる。ノンビリしすぎているとの批判もあるが、自分たちの歴史を大切に、先人の開拓の心を忘れまいとしているようだ。それは、もう一つの小さな博物館を見学した際に、つくづく感じた。シドニーから山脈を越えて内陸へ入った田舎町パークスの歴史博物館である。博物館といっても建物は1875年に建てられた古い共済組合員のレンガ造りの教会で、町の人々によって1967年に開館された。19世紀初めに開かれたこの地は、その後付近の金鉱の発見で発展したらしい。館内には100年も昔の居間や寝室、キッチンが当時のまま保存されている。また当時の歯医者者の治療室や、何と絞首刑の道具まで展示されていた。まだ開拓時代の生々しさが残っているからかも知れないが、年配の人々はうれしそうに我々に説明してくれた。ひるがえって我が国を思うに、わずか100年余り前の明治維新に、多くの文化遺産を自分から消してしまったことは大いに反省させられる。

しかしオーストラリアは若い国で、古いことだけを大切にしているのではない。このパークス郊外には、数々の発見や研究で知られているパークス電波天文台があり、さらに、離れた山中にあるサイディング・スプリング天文台は、南天の観測で最新天文学に大きな貢献をしている。そしてそれらの研究施設は、いずれも見学者に開放されていて、見学者のためのミニ博物館が付属しているのである。

〔海外の博物館〕

モスクワ・レニングラード・パリの人類学博物館

国立科学博物館 山 口 敏

モスクワ大学など、ソ連の研究機関の所蔵標本を中心にして構成された「ネアンデルタールとクロマニヨン人展」（主催：日本対外文化協会・読売新聞社、後援：国立科学博物館ほか）が、昨年（昭和57年）7月から東京会場を皮切りに全国10か所の会場を巡回中である。この展覧会の出品物を選定するため、昨年の春、ソ連の人類学関係の博物館施設をいくつか駆け足で見てまわる機会があったので、そのときの印象をすこし書き記すことにする。

最初に訪れたのは国立モスクワ大学附属人類学博物館である。尖塔をもった巨大な建築で有名な新しいモスクワ大学は、モスクワ市の南西郊、レーニンの丘の上にその偉容を誇っているが、市の中心部にあった旧校舎の一部は、今でもクレムリンに近いマルクス大通りに面した所に残っており、そこには現在モスクワ大学附属のアジア・アフリカ言語学院や人類学研究所などが入っている。人類学博物館も、その旧校舎の2階にある、300㎡ほどの、ひろびろとした明るいひと部屋を占めている。同じ階には100人以上のスタッフをかかえる人類学研究所の研究室や資料室が並んでおり、化石人類の研究ばかりでなく、いろいろな環境のもとでのヒトの成長のしかたとか、極寒地への生理的形態の適応とか、諸民族の身体計測にもとづく衣服基準の作成といったような、さまざまな研究がおこなわれているのであるが、博物館の展示は主として学生の教育を目的としており、内容はかなりクラシックである。

展示の構成は、進化学説と生物の系統発生、自然界における人類の位置と特殊性、霊長類の分類、人類の起源、猿人・原人・旧人から新人への進化、ソ連における旧人と新人の化石、旧石器時代の文化と生活、というよ

うになっており、それぞれ概説的な一次パネルから、かなりくわしい内容の三次パネルまで、体系的な解説がつけられ、精巧なレプリカやすぐれたイラストも随所に使われていて、人類学を学ぶ者には、時のたつのを忘れさせるような、良質の展示である。ただ古典的な人類進化学以外の、新しい研究分野の紹介が全くないのが、ちょっと物足りなく感じられた。展示解説のはじめの部分にエンゲルスの著作からの引用があるようであったが、人類進化の系統解釈の点などでは、最近の西側諸国の学界の業績や学説が十分にとり入れられていて、違和感は全く感じなかった。

この博物館で、有名なテシク・タシュやスタロセリエ出土のネアンデルタール人の資料などを選んだあと、モスクワ市内にあるグラシモフ博物館を訪れた。人類学者としての学識と、彫刻家としての才能とをうまく結びつけて、頭骨をもとにかずかずの化石人類の生前の顔を復原したグラシモフの業績は日本でもよく知られている。氏は1970年になくなったが、その自宅が小さな博物館となっていて、故人の作品が棚一杯に陳列されている。ここではテシク・タシュのネアンデルタール少年の立像や、スングルのクロマニヨン人の胸像など、有名な作品を出品してもらうこととなった。グラシモフ教授のはじめた仕事は、2人の女性研究者があとを継いでおり、今ではモスクワ市内の科学アカデミー附属の形成人類学的復原研究室という所で続けられている。今度の展覧会に出品されたスングルのクロマニヨン人の少年と少女の復原胸像は、この2人のお弟子さんたちの作品である。

モスクワでの予定の仕事のひとつを済ませた後、週末の2日間はレニングラードの博物館見学で過ごすことになった。エルミタージュ博物館の建物の壮麗さと所蔵



マルクス大通りに面したモスクワ大学旧校舎。
2階に人類学博物館がある



グラシモフ博物館の陳列



入場の順番をまつ市民の行列にとりまかれたレニングラードの人類学民族学博物館（左）と人類資料の収納棚（右）

品の美しさはもちろん印象的であったが、私にとってもっと興味深かったのは、大ネバ川をへだててエルミタージュの対岸に並ぶ科学アカデミー附属の二つの博物館であった。

最初に訪れた動物学博物館では、マンモス化石のコレクションがよく知られているが、哺乳類、鳥類から無脊椎動物にいたる全動物界の標本の徹底的な分類展示がその壮大な規模を誇っており、展示技術や解説をこえた、標本そのもののもっている迫力に圧倒される思いであった。昨年がちょうど創立 150 年にあたると教えられた。

そのとなりの人類学民族学博物館は、18世紀にピョートル一世の集めた珍奇標本の収蔵館（クストカメラ）として建てられ、その後アカデミーに移管されて、一時はロシアの大学者でモスクワ大学の創立者として知られるロモノソフも研究していたことがあるという、由緒ある古い建物である。展示は外国の諸民族の生活資料に重点をおいており、日本でいえば大阪の国立民族学博物館のそれに相当するような内容であった。日曜日にもかかわらず人類学部門の研究者が出むかえてくれて、展示室のほかに収蔵庫と研究室も見せてもらうことができた。人類資料の収蔵施設は本館から車で5分ほどの所にある大きな教会の建物を改修したもので、中央部分にうず高く収納棚が積みあげられ、窓際の明るいスペースで、若い研究者が頭骨を手に分の研究しているテーマを熱心に話してくれた。私にとって関心の深いシベリアの古人骨資料もかなり豊富にあり、いつかゆっくり調べてみたいと話すと、いつでも歓迎するから、この次はもっとゆとりのある日程を組んできては、とすすめられた。

週末をレニングラードであわただしく過ごしたあと、シングル人の原資料の出品についてのアカデミーとの打

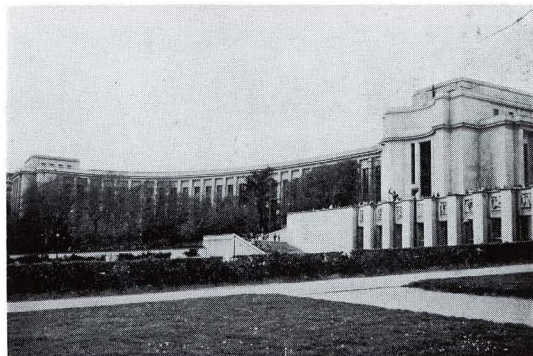
合わせなど、残っていた仕事を片づけるため、夜行列車で再びモスクワへ向かった。用事の合間をみてモスクワ大学の人類学博物館にもう一度顔を出してみると、前の週に私がもらしていた希望が聞き入れられて、アムール川下流域に住むウルチ族の頭骨20数点と、アルタイ地方の先史時代人の頭骨10数点が、奥まった収蔵庫からとり出されて、窓ぎわの広いテーブルにきれいに並べられていた。これには全く感激した。これらの標本は、かねがね私が、日本の古人骨との比較のため、ぜひとも一度実物を手にとって観察してみたいと願っていたものだったからであ

る。時間が足りなくて標本写真まではとれなかったが、ひとつひとつ手にとって調べ、必要な点はメモをとることができた。これだけでもモスクワまでやって来た労は十二分にむくわれたという思いであった。

ソ連での仕事は、こうしたおまけまでについて、無事に全部終わったが、ちょうどこの時期、ヨーロッパ中の原人の化石や石器類を一堂に集めた特別展がパリの人類博物館で開かれていたので、帰国の前にパリまで足をのばして見学することにした。

雪がとけたとはいえ、まだ頬を刺すような冷たい風に土ぼこりの舞う冬景色のモスクワに比べると、樹木がいっせいに芽を吹きだして、やわらかい緑が落ち着いた建物の色にはえるパリの春色は、まったく別世界のようにあった。かつてあれほどパリにあこがれたロシアの貴族たちの気持が痛いほどわかるような気がした。

パリの人類博物館は、フランスの国立自然史博物館機構の中のひとつの博物館で、広義の人類学の研究機関でもあるが、カルチエ・ラタンの植物園の中にある動物や



人類博物館のあるパリのジャイヨー宮

古生物の博物館とは離れて、トロカデロのシャイヨー宮の西翼に入っている。展示は人類学、先史学、民族学の3分野にまたがっており、量的には民族学分野の展示が一番大きい。人類学のセクションでは、ここでも古典的な人類進化の展示が中心となっているが、そのほかに、最近作られた、パネル中心の人間生物学の展示があって興味をそそられた。ヒトの染色体と遺伝子、性の決定、発生、成長、老化、身長・頭形・皮膚・毛髪の変異、人口、人種、混血、疾病といったテーマについて、イラストや模型をいろいろ工夫しているのであるが、今ひとつの感をぬぐうことができなかった。ロンドンの自然史博物館も新しい人間生物学の展示を試みて、注目を集めているといわれるが、展示解説書をみると、展示の構成にまだ無理があるように感じられる。いずれは日本でもこういう分野に取りくむ必要があるとは思いますが、博物館展示としてはまだまだ研究しなければならない点が多そうである。

「最古のヨーロッパ人」という題の特別展は、かなりレベルの高い専門的な内容をもった展示で、ハイデルベルクの下顎とかシュタインハイムの頭骨など、じっくり



トーテムポールの立っている人類博物館の玄関。右は海洋博物館の入口

と観察することができた。ただ、ひとつ意外に思ったのは、人類の化石がすべて精巧なレプリカで統一されていることであった。目玉として喧伝されていたアラゴ原人の顔面化石でさえも、実物は出品されていなかった。このことをはじめは奇異に感じたのであるが、あとから考えてみて、これもまたひとつの見識なのかもしれないと思うようになった。

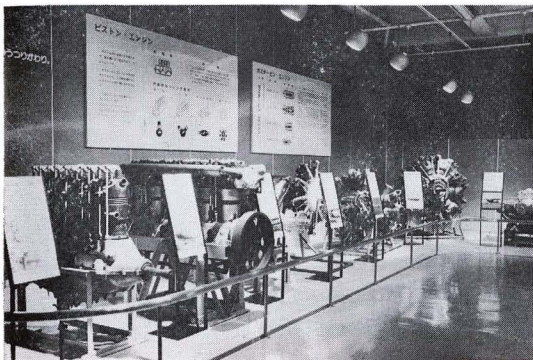
〔新しい展示〕

航 空 室 の 展 示 替 え

交 通 博 物 館

このたび当館では、航空室をほぼ10年ぶりに改装した。今回の改装の目的は、航空機用エンジンを中心に、航空関係実物資料を展示することと、旧態化した展示を更新することである。ここ数年の間、関係諸団体の御協力により、少しずつ資料も増加していた。また、これを機会に収蔵中の資料の調査研究を行ない、いくつかの新事実を確認することができた。

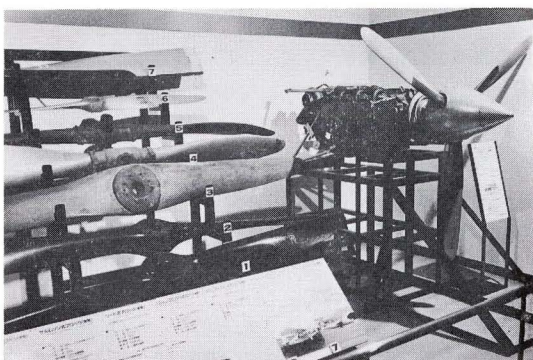
「航空エンジンのうつりかわり」コーナーには、1910年代から70年代までのエンジン11点（内1点は別置）を展示した。レシプロエンジンは8点、ジェットエンジンが3点で、航空エンジン変遷の概略史になっている。



この他「プロペラ」コーナーには、木製から金属製まで9点（内1点別置）のプロペラを、「つばさ」コーナーには翼の断面と垂直尾翼、「飛行機のあし」コーナーには航空機用タイヤや主脚などを、それぞれ展示している。

さらに、従来から展示しているDC-8コックピットや航空灯台を含め、この部屋の展示資料はすべて実物であり、使用機種が判明したものには、写真を添えている。

今回は経費の面から、全室全面改装には至らなかったが、マイナーチェンジでも展示効果が高められることが確認できた。今後も航空室の充実に努めていくつもりである。（佐藤美知男）



〔新しい展示〕

自然展示室を開室 ―豊かな沖縄の自然を紹介―

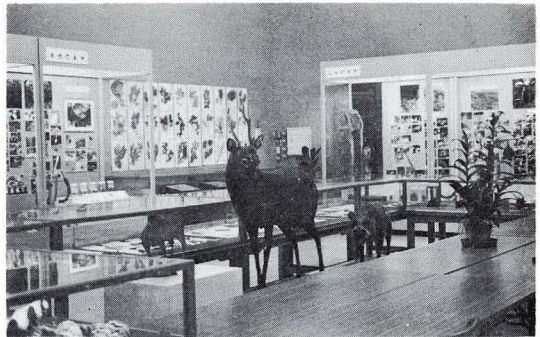
沖縄県立博物館

当館は昭和20年に設立され、当初は美術工芸品が主体であったが、昭和49年からは自然系の資料も収集し展示するようになった。昭和56年には、総合博物館として登録された。自然系から人文系におよぶ県内の資料は豊富である。時はすでに遅い感もするが、今すぐにも収集しておかなければならないものが多い。また、展示を通して、今、児童生徒に学習させておかなければならないことも多い。当館が、県内の数少ない社会教育機関の1つとして、あえて総合的な内容にした理由はそこにある。

本県では、西表島のイリオモテヤマネコや沖縄島のノグチゲラは、国指定の特別天然記念物でもあり、よく知られている。また、この亜熱帯の沖縄では不向きなスタイルをした大型のケナガネズミや、嘴と足が紅色で白黒まだらの飛べない鳥ヤンバルクイナなどと珍しい動物も多い。即ち、地球上で、本県にしか生息していないものがあり、生きた化石といわれている種類もいる。

しかし、貴重なものであり、生きた化石といわれているこれらのものも、『どこで見たらいいのか』、あるいは『どこで学習させたらいいのか』という言葉をししばし耳にして心の痛む思いが多かった。確かに、「貴重なものだから取ってはいけない」とはよく言うが、それがなぜ大事なのかということについては十分な説明がなされなかったこと、また実際に実物あるいは標本を見る機会が十分にあれば、野外での識別が容易につくはずだが、それもなされていなかった。こういう基本的なことは、当然博物館で行われて然るべきことである。

これまで諸々の事情があつてのびていたが、今回やっと“豊かな沖縄の自然”を紹介できる常設展示室を開室（昭和57年5月7日）することができた。内容的に不十分であることは否めないが、県内の児童生徒には自然学習の一助となり、県外の方々に対しては沖縄の自然の一



自然室展示風景

端を紹介できるものと確信している。

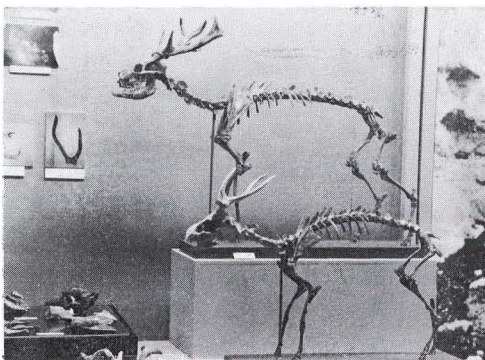
自然室は、従来特別展示室として館外の方々にも利用いただいていた約170㎡の部屋である。開室準備にむけ、標本のチェックをしながら本格的な準備委員会をもったのは昭和57年4月上旬であった。慌ただしい日程のもとに開かれた準備委のメンバーは、池原貞雄琉球大学名誉教授以下琉球大、中学校、高等学校の生物・地学の教師15人で、いずれも野外活動の第一人者である。展示構成についての議論は連日連夜にわたり、自然室を開室できるという喜びが、言葉の端々にうかがわれるものであった。その結果、展示には“博物館で何かを得た”という内容が必要であること、さらに展示室を一巡することで“沖縄の自然”が紹介され、かつ学べるようにすることで意見が一致した。また、展示構成における各項目の見出しを次のようにすることが決まった。

- (1) 島じまの地質→(2) サンゴ礁から海浜まで→(3) 集落とその周辺の生物→(4) 島しょ河川の生物→(5) 低地の生物→(6) 山地の生物

展示は、標本約1,000点と生態写真など約500点を主軸に構成し、1つの試みとして説明・解説は最少限に止めた。これを補うものとして、案内書を作成中であるが、そのほか展示室の中央に学習コーナーを設置し図鑑や文献類をおいていつでも利用できること、また、児童生徒には作問用紙を用意し、これをもとに解説員や学芸員に接触できる機会をつくり、疑問に答えるなかで説明している。それは大変好評で、解説員は大忙しである。

なお、開室にむけての予算は、写真焼付けに要した経費以外は皆無であった。このようなまったく手作りの展示は、幸い多くの方々から好感をもって受け入れられ、励ましのことばと共に標本の寄贈も相次いだ。数カ月わたる担当者らの払った個人的な犠牲は、次の段階（展示室拡張→自然史博物館の建設）へと発展継続していくものと期待している。

（大城逸朗）



わが国唯一の標本、リュウキュウジカ(上)とリュウキュウムカシキョン(下)のレプリカ

全 科 協 北 か ら 南 か ら

20 年 の 科 学 館 勤 務 を 終 え て

名古屋海洋博物館準備室 平 沢 康 男

昨年11月1日、37年間お世話になった名古屋市、そしてカッキリその日に開館20周年を迎え、記念行事に忙殺されている市立名古屋科学館を退職させていただいた。辞令をいただく際に、「科学館運営の労を評価する」との過分の言葉を頂戴したが、考えてみれば、これはすべて館の職員はもとより、国内の関係館の方々の御援助によるものと厚くお礼申し上げる次第である。

さて、20年といえば私個人の人生経験はもとより、日本の大戦前からあるしにせの数館を除いては、大半がこのあたりからスタートしている。国民生活も漸く世界の水準に達し、例えば各地に地下鉄が計画され、新幹線が試運転され、ポリプロピレンやテフロンなど新しいプラスチックが開発され、インスタント食品、電子レンジ、カラーテレビ、そして50万円近くもしてタイプライター程度の大きさの文字通り“卓上式”計算器などがオフィスや家庭に洪水の如く進出しつつある時代であった。我が国で理工系博物館、いわゆる科学館・サイエンスセンター的名称で、科学技術の基礎と応用を市民に知ってもらうための博物館が、これまた世人の関心を集めつつあるスペースサイエンスと自然回帰の知的なレジャーを兼ねたプラネタリウムを併設して続々と建設されたのも、国民の多大の要望があったからであろう。

在来の殆どどの博物館に対し、この種の理工系、特に新しいものを紹介していこうという博物館の運営形態が全く異なることは早くから予想はされていたが、現実には想像以上のものがあった。第一にまだ確たる運営セオリーさえなく、手さぐりの状態なのである。そして展示されるべき“科学技術の成果”なるものは止まるところを知らぬ変貌をしつつあり、次から次へと展示替えていかねばならぬ性格をもっており、加えて「触れさせ、試させ、確かめさせ、体得させる」というもう一つの性格は、実質的にも学問的にも、どんどん老朽化していくのである。「展示の補充をいかにしていくか？」ということは理工系博物館の大きな、そして永久に続いていく課題である。名古屋科学館においても、館長はじめ当時の上司も、これに相当なエネルギーを割き、モノ集め資金集めに奔走し、現在も続いている。この面においては特に地元の公的機関、企業、通産・科学技術庁などの国の機関、そして時には個人の特志家の多大の協力が続き、なんとかある水準におさまっている現状である。

運営セオリーにおいても、東京・大阪に大戦前からある館、名古屋と相前後してオープンした科学技術館・神

奈川や京都の館を訪問し、展示の方法を学び、アイデアを頂戴し、次の企画に温めるなど相互の交流がどれほど役に立ったか計り知れないものがあった。そして後年次々に誕生する新しい館は、材料や表現方法に学ぶべきことが多く、何よりも職員の方々のフレッシュな意気込みで心を打たれた。

すべての博物館職員にあてはまることであるが、お互いの館を訪問し直接に見学することは運営上多大のメリットがあるものであるが、その最たるものは人と人との交流であろう。しかし予算生活をしている博物館職員はそうそう全国の館を隈なく訪問して話を伺うチャンスがあるものではない。「他館を訪問しよう」という積極的な動機なんてなかなか湧かないのである。

そのきっかけを作ってくれるのが全科協など博物館組織の大会なり研究会であり、考えてみると20年間の私の訪問の大半は、それへの出席を兼ねて、ついでに付近の館を見学したものであった。そして会の日程に組み込まれた未知の館で思わぬ勉強をしたものである。

昼間のセレモニーに続く研究発表会も、もちろん血となり肉ともなるが、本当の勉強は懇親会なり夜に床を並べた場でやりとりである。公的な会話ででたプラス面の話ばかりでなく、本音の入った素直な話が後々どれほど参考になり、館相互の人間関係にプラスしたことか。

新設館は将来のこととして、高度経済成長期前後に建設された15～20年目の館では、円熟した運営で軌道に乗ってはいるものの、そろそろ施設・展示の慢性的な老朽化や人事面（特に学芸的職員の処遇）について苦勞が増えてくる時期にさしかかってくる。理工学博物館相互で、この面の打開策を探りあうのも次の段階への発展の前提として意義のあることと思う。

現在、私は昭和59年夏にオープン予定の「名古屋海洋博物館」の準備室にお世話になっている。愛知県と名古屋市が共同管理している名古屋港管理組合が計画しているポートビルの中に置かれるもので、海に突出した公園の横に、大きな帆船を想わせ、波と潮風を連想させるスタイルの建物の中に、講堂と1,200㎡程度の展示室ができる。港の歴史や発展、海と船の科学、港を支える機関の紹介などで構成され、展示室とは別に屋上ではブリッジやラジコン船、それにそこから展望できる名古屋港そのものを展示構想に組み入れるもので、完成の暁には、ユニークな博物館として、また一つ日本の博物館の仲間に加わらせていただくことになるはずである。

理工系学芸員の養成

東京農工大学繊維博物館長

金子 六 郎

学芸員制度は、博物館にとって最低限のレベルを守るための重要な役割を果たしている。もちろん大学等における学芸員養成課程の内容が、司書や教職の課程に比して軽すぎはしないか等種々の論議のあることは承知している。

話を大学における養成課程に限定して考えると、養成課程の受講者はそれぞれの専門を学ぶかわら受講するわけで、専門の中にかなり博物館を職場とした場合にも役立つ教科があり、それプラスαという形で養成課程が成立しているので、内容として最低限現在程度のものをがっちり学ぶことが良いと考えられているようである。したがって博物館中でかなりの率を占める理工系館を職場にしようとする学芸員は、当然ベースに理工系の専門知識を必要とする筈である。細分化された学問体系はともかく、少なくとも自然科学的なし工学的な思考のセンスを必要とする。このため博物館協会や全科協で以前から理工系学芸員の養成が要望されていたのは当然のことである。

当館としても教官1、技官1、事務官2(内、定勤1)と人的内容が充実したのを機会に昭和56年度から養成課程の設置に踏み切った。学外からも加藤国学院大学教授をはじめ多くの方々の御協力を頂いて順調な出発をし、受講生も繊維系の学科のみならず化学・電気・物理・情報等ほとんどの学科から願出があって、幅広い人材を育てつつある。第2年次以降は「産業考古学」や「保存科学」など独自の講義も開講して特色づけの一つとしている。

このほか本学部の養成の特徴は、自前で博物館実習ができることである。内容は、通常どこの館でも行なう資料図書の整理等のほか、専門家のボランティアによってビデオ撮影を行ったり、館の特別展の設営や運営等、他の館では到底やらせてもらえないユニークなものが並んでいる。

かなりハードなスケジュールにもかかわらず、受講生は非常に張り切って実習に講義に力を入れており、ぜひ博物館で働きたいと希望する者も多い。ウチの受講生(そんな雰囲気なのです)たちは粘り強いやらヒラメキの鋭いのやら色々のタイプのものが揃っている。

各館園の皆様厳しい状況下とはいえ、チャンスがありましたら、ぜひよろしく願いいたします。必ず御期待に応える人材を御紹介できると信じています。

プラネタリウム・話題の選択について

五島プラネタリウム

増 沢 等

当館の一般投影は、小学生から大人まで、幅広い層の入館者を対象としている。この入館者も、曜日によって、また時間帯によっても違ってくる。日曜日・祝祭日・夏休みなどは家族づれが多く、また平日の最後の回(18時~19時)は大人が多い。マニュアル投影の長所はどのような入館者の層であろうと、解説者の判断一つで対応できるところにある。

このような幅広い層の入館者に対して、どのような話題をとりあげ、内容をどこまで検討しておくかは大きな問題である、当館では毎月話題を変えているが、前年度の終わり頃に1年間のテーマを決定する。

天文の分野は非常に広く、深い。選択の基準となるものは、第一にその年の天文現象があげられる。日月食、惑星現象、流星群、彗星等……。つぎに季節的にその天体の見やすい時期も考慮する。天の川、星雲、星団などがその例である。さらに、さまざまな探査計画、宇宙開発の開始やその成果が発表される時期もあらかじめ知っておく必要がある。また天文に関係する記念行事などもあげられる。このようなさまざまな要素を検討して決定したテーマは、前年度末に年間計画として発表する。

投影の具体的な内容は、その投影の3か月前に担当者を中心に解説者の話し合いでつめ、さらに数名の学識経験者を交えた学芸委員会で検討していただく。それをもとに原画の作成、スライド・投影機等の準備をする。

本年(1983年)1月には「ハレー彗星をとらえる」というテーマをとりあげた。ハレー彗星は76年の周期をもち、1986年に太陽に最も接近する。前年度にこのテーマを選んだ時点で、1982~3年頃、この彗星が確認されるであろうと見込んで取りあげた。はたして1982年10月中旬にアメリカのハール天文台の大望遠鏡により、こいぬ座で検出された。明るさは24等と暗く、しかも発見場所は天の川の中と非常に条件の悪い場所であった。今後はだんだん明るくなり、1986年には最も太陽に近づく。この接近の機会に日本では彗星探査機プラネットAが打ち上げられる予定となっている。

1月の投影ではこのようなニュースを盛り込み、また前回に接近した1910年当時の資料をもとに、その時の様子を再現する。

話題の選択、投影内容の検討、使用スライドの作成の際にも、もともになるものは何と言っても資料である。広い意味での資料収集の重要性を痛感する次第である。

会 員 館 園 の 消 息

プロペラ双発機の展示

交 通 科 学 館

当館は鉄道をはじめ、自動車、船舶、航空の各分野を扱った博物館であるが、このたび、朝日新聞社からプロペラ双発機（エアロ・コマンダー680F型）の寄贈を受け航空室に展示した。

この双発機は、米国のエアロ・コマンダー社製で、高翼のため、下方の視界が良く、わが国では、航空写真や測量、新聞社の取材などに使われている。

保存、展示については、寄贈者の意向もあり、なるべく原型のまま展示することになった。そのため、輸送や搬入のための解体についても、切断という方法は採らず、一部のリベットを外して外板をはがし、胴体と翼とを結合しているボルトを外して分解する方法とした。

また、すでに床置きして展示中のKAL-1型軽飛行機を通路側天井から吊り下げる方法に変更して、そのス



プロペラ双発機(奥)とKAL-1型
軽飛行機(手前)

ペースを確保し、室の中央部に床置きして展示した。

この双発機の展示によって、単発、低翼のKAL-1型と共に、種類の異なった実物の飛行機が2機になり、航空部門がより一層充実した。（榎井喜孝）

特別展「むかしの天体観測」を開催

生駒山宇宙科学館

生駒山宇宙科学館では、ここ数年間にわたり年3回（春・夏・秋）の特別展を開催してきた。新しい話題を求め、「エネルギー」「隕石・隕鉄」と入館者の関心度をさぐりながら、しかも、出来得る限り実物を中心に開催することに努力したのである。その結果、数年前までは、年間平均11万人の入館者であったものが、ここ数年、13万人、15万人と増加し、本年度は17万人の目標も達成できそうな状態になってきた。つまり、それだけ館のPRが行き届き、人々の関心を集めてきたことになる。

そこで1982年秋には、天文ブームに関心を持つ人々を対象に、しかも、昔の人々の苦勞を中心に考えるという意味で「むかしの天体観測」をタイトルとした特別展を

開催した。これには、次の各館から特別出品などで御協力をいただいた。

京都大学理学部宇宙物理学教室

（安政2年作・天球儀1基）

井伊美術館

（国友藤兵衛作望遠鏡1基、

オランダ製六分儀1基）

天文博物館五島プラネトリウム

（望遠鏡1基）

国立科学博物館

（望遠鏡1基、簡天儀1基）

大阪市立博物館

（望遠鏡1基、写真パネル）

明石市立天文科学館

（写真パネル）

天理図書館

（1625年製天球儀、16世紀の渾天儀）

なお、9月14日から11月30日まで会期中の入館者総数は27,778人であった。（濱根 洋）



開館20周年を迎えて

市立名古屋科学館

市立名古屋科学館は、昭和57年11月めでたく開館20周年をむかえることができた。当科学館は、名古屋市が市制70周年記念事業の一環として計画したもので、昭和37年11月に、大型プラネタリウムを中心とした天文館が、昭和39年11月には、理工学関係展示品を設置した本館がオープンした。以来20年間、近代科学に関する知識の普及啓発を目的として、展示並びに教育普及活動の充実に努めてきた。現在年間観覧者数は約50万人、昨年10月24日には900万人を突破した。観覧者の内訳は、大人と小中学生の比が1:2、個人と団体の比は3:2、また市内利用者40%に対して、市外利用者は60%となっている。

展示および教育活動の歩みについては別の機会にゆずるが、国際化の面について若干記しておきたいと思う。

当科学館の内容が、世界の代表的な科学博物館であるドイツ博物館およびシカゴ科学産業博物館をモデルにしたこともあって、当初から海外の代表的な科学博物館との交流を深め、情報資料の交換を進めることに積極的で、昭和50年10月には、名古屋と姉妹都市であるロサンゼルスのカリフォルニア科学産業博物館と姉妹博物館提携をした。また、国際プラネタリウム館長会議に参加するとともに、昭和53年夏には当館において「第6回国際プラネタリウム館長会議」を開催した。なお、当館は、アメリカの代表的科学博物館の組織である全米科学博物館協会ASTCにも加盟し、科学博物館の世界的動向をキャッチし、その成果を日々の活動のなかに取り入れるよう努めている。

なお当初から計画のなかにあった西館については、昭和56・57年度に調査費が計上され、近く調査委員会より調査報告書が提出されることになっているが、各委員の意見としては、人間を中心にしたテーマで展開してはどうかという方向が打ち出されている。

次に科学館20周年記念事業についてであるが、11月1日の開館記念日を中心に、次のような各種行事を実施した。

- 本館展示室無料公開 11月2・3・4日
- 特別講演会 11月3日
- 特別映画会 11月6・7日
- 蓄電池式電気機関車の運転 11月3・6・7日
- プラネタリウムコンサート 11月27日、12月6日

特別講演会は、1981年度ノーベル化学賞受賞者である福井謙一京都工芸繊維大学学長を招へいして開催した。演題は「自然とその調和」で、同講師は、今世紀最高の科学者の一人であった、アルバート・アインシュタインの自然観からはじめて、正しい自然認識を得るためのプ



蓄電池式電気機関車運転



特別講演会

ロセスについて、いくつか例示しながら講演されたが、そのなかで自然のモデルを選ぶことの重要性、さらには自然の認識において人間の頭脳がいかに重要な役割を果たすかについて解説された。また、ノーベル化学賞の受賞対象になった「化学反応におけるフロンティア電子理論」成立にいたるまでの研究過程についても平易に説明され、青少年から高齢者にいたる約550名の聴講者を魅了した。

11月3・6・7日の3日間、蓄電池式のミニ電気機関車を運転した。この機関車は、国鉄が以前使用していたAB10型の14分の1の大きさのもので、長さ40mのレールの上を、子供たちを乗せて力強く走った。プラネタリウム・コンサートが、日頃科学に縁がなく、また興味もない人にも科学館に足を運んでもらおう、美しい音楽や星の動き、そして色の変化などを楽しみながら、星や宇宙の話を書いていただこうというねらいのもとに開催したもので、当日は「宇宙の果てに見えるもの？」というテーマで、約2時間にわたり、果てしない宇宙の姿について、平易にかつ興味深い解説がおこなわれた。

以上開館20周年記念行事のいくつかについて簡単に記したが、この他に科学館の20年の歩みをまとめた冊子を現在作成中で、これが完成すれば、全国科学博物館協議会の加盟施設の今後の運営上の参考となるのではないかと考えている次第である。

(滝本正二)

新年おめでとうございます

剥製 骨格 標本 **TAXIDERM**
Y ANATOMY
SAMPLE
全種製作専門
有限会社 尼ヶ崎剥製標本社
〒113 東京都文京区弥生2-71 TEL 03(814)8874(代)

教室、会議室から会館大ホールの映写装置まで **EIKI**
あらゆる会場に最適の

映機16ミリ映写機
EIKI 映機工業株式会社
このマークが保証する

本 社 〒530 大阪市北区万才町4番12号(浪速ビル) ☎(06) 311-9475
東 京 〒105 東京都港区虎ノ門3丁目1番11号(第七森ビル) ☎(03) 432-3356
九 州 〒812 福岡市博多区博多駅東1丁目1番15号(博多駅東口ビル) ☎(092)431-0222
北海道 〒065 札幌市東区北35条東9丁目491 ☎(011)711-9222



あけてみませんか

企画、設計、施工
(株) 鬼工房

〒101 東京都千代田区神田神保町1-50
千代田グレースビル TEL 294-4061(代)

科学館・
博物館の
展示



**企画・設計
制作・施工**



京都科学標本株式会社 科学模型部

本社(京都) TEL(075)621-2225(代)
東京営業所 TEL (03)291-5231(代)

プラネタリウム
天体望遠鏡・太陽望遠鏡
株式会社 五藤光学研究所

〒183 東京都府中市矢崎町4-16
TEL. 0423-62-5311(代)

ニューミュージアムを設計する。
UCHIDA CULTURE MUSEUM SYSTEM

ユ ー カ ム ス
U C M S

未来への博物館づくり これが基本理念です。

株式会社 内田洋行 教育機器事業部
東京・大阪・札幌・福岡
東京営業部/本部 〒104 東京都中央区新川2-4-7 ☎03(555)4236

化学実験装置
&
模型のパイオニア

おお み
om 大 味

〒116 東京都荒川区町屋6-6-5
TEL 892-2796・892-2710

マイクロコンピューター、科学解説模型、
シミュレーター、音響映像プログラム装置等
企画から制作まで

株式会社 科学工芸研究所

東京都新宿区市ヶ谷田町3-4 〒162
Tel. (03) 269-6381 (代)

科学展示の設計制作に実績のある

ディスプレイ・インテリア
株式会社 芸宣

東京都練馬区旭町2-25-12
〒176 TEL 03 (939) 3221-8

斬新な企画とアイデアで科学をディスプレイする。
Science & Display これが目標です。

株式会社 サテタイト

東京都渋谷区神宮前3-10-12
TEL. (03)478-0055(代表)

新年おめでとうございます

空間に「夢」と「心」を演出する...



三和アドバタイジング(株)三和通信社

本社 東京都中央区八重洲2-6-7(〒104)

電話 (03) 281-1051 (代)

教育用理化学器械・展示用大型実験装置



島津理化学器械

〒101 東京都千代田区内神田 1-14-5

TEL (03) 295-0210

科学館・博物館の企画・設計・施工
プラント模型及び実験用模型の制作

商工美術

東京 03-402-7601

大阪 06-251-4141

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-57-6 札幌 011-222-5261

博物館づくり150館の経験をもつ

創造集団

株式会社 丹青社

科学造形研究センター

〒101 東京都千代田区外神田3-8-9 昌徳ビル TEL. 03(255)0833

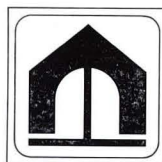
TEAC 光ビデオディスクシステム

科学館・博物館に適したD.R.A.W.方式
アドオン可能・ディスクは一枚ずつ製作

ティアック(株)ビデオ特機事業部

武蔵野市中町3-7-3 (〒180)

TEL 0422-53-1111(代)



Display

株式会社 東京スタジオ

本社・東京都豊島区駒込1-14-6 TEL 03-946-3481

科学展示模型

伝統と技術が誇る

東京前川科学株式会社

〒101 東京都千代田区神田多町2-1

TEL (03) 254-2604 (代)

東京・大阪・札幌・福岡・京都

Design & Construction Specialist since 1917 nakagen

生きている博物館づくりに
65年の実績がお応えします。

中村展設株式会社

〒130 東京都墨田区両国2-9-8 ☎03(634)6201(大代) 支社/大阪・千葉

視聴覚・放送・自動制御機器等総合システム

ナショナル電設株式会社

大阪 大阪市西区京町堀1丁目6-23(小畑ビル)

営業所 電話(大阪) 06(445) 6666番(代表)

東京 東京都江東区木場6丁目3-18

営業所 電話 03(649) 8622番

ユニークな企画と

定評ある表現技術



西尾製作所

〒607 京都市山科区柳辻池尻町48-4

電話 京都(075) 594-0181(代)

新年おめでとうございます



ディスプレイ 企画・設計・施工
精密模型 企画・設計・製作

日精株式会社

〒105 東京都港区西新橋1-18-17 (明産ビル)
電話 03(502) 3 4 7 1 (大代)

●新鮮なアプローチは、多くの瞳を輝かせる●
ディスプレイ・エキジビション／企画・設計・施工

b total display
NITTEN

東京都台東区東上野6丁目21番6号(〒110) Tel.03・843・4111
大阪 Tel.06・361・2031/名古屋 Tel.052・471・5166/金沢/神戸

確かなかたちで、伝えたい。

私たちは博物館の展示・創造を通して、
明日へのコミュニケーション活動を広げています。

株式会社 乃村工芸社
文化施設事業部

本社：東京都港区芝浦4-6-4 電話03-455-1171代表
東京・大阪・札幌・仙台・岐阜・神戸・岡山・北九州・福岡・鹿児島

データ・史料の調査研究から
有限会社 **バイル工芸**

本社 東京都品川区上大崎3-2-9(星野ビル)
〒141 Tel 03-443-7918
工房 東京都目黒区目黒1-22-8
〒153 Tel 03-491-4458
工場 埼玉県岩槻市大字黒谷2136

よりたしかなスペースづくりをめざして。

文化施設 cultural institutions エキジビション exhibition 商業施設 store services



DISPLAY & INTERIOR
HAKUSUISHA

株式会社 白水社

■ 東京都中央区日本橋茅場町2-2-8 ☎(03)669-1221 ■ 大阪市南区東清水町54 ☎(06)252-4501
■ アクアクラフト事業部 東京都港区六本木5-17-1 AXIS B1 ☎(03)587-2115

最新の情報メディア“マルチイメージシステム”
をご利用ください

視聴覚機器の総合メーカー



北辰プレジジョン株式会社

東京事業本部 東京都大田区下丸子3-30-1(㈱北辰電機製作所内)
〒146 ☎ 03/756-1100(代表)
大阪営業所 大阪市東区瓦町5丁目71番地(瓦町ビル)
〒541 ☎ 06/202-5835
福岡営業所 福岡市博多区博多駅南1丁目3番11号(博多南ビル)
〒812 ☎ 092/472-3487
本社工場 長野県下伊那郡松川町元大島3176番地25
〒399-33 ☎ 02653/6-3155(代表)

情報化時代に対応する最新のAVシステム
づくり——

設備の設計から施工まで
トータルにご用命を承ります



丸善 [教育設備事業部]

(〒103) 東京都中央区日本橋2-3-10
☎(03)272-7211 / 全国各地に支店・営業所

プラネタリウム・システム建設のための
資料をおとどけします。ご一報ください。



MINOLTA

☎ ミノルタカメラ株式会社 ☎
大阪(06) 東京(03)
271-2251(代) プラネタリウム課 435-5511(代)

あらゆるニーズに
お応えする



DISPLAY & INTERIOR
MURAYAMA 株式会社 ムラヤマ

〒112 東京都文京区後楽2-13-10 TEL (03)813-1201(代)
東京/大阪/名古屋/神戸 旧社名=村山装飾舞台株式会社

コピー感覚の高性能印刷システム

RISOGRAPH

リソグラフ

理想科学工業株式会社

〒105 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館
電話(03)572-8501(代)

会 員 館 園 の 紹 介

栃 木 県 立 博 物 館

栃木県立博物館は、1982年10月、宇都宮市内の栃木県中央公園地内に建設された。

栃木県は、世界的に有名な日光国立公園を中心とした豊かな自然と数多くのすぐれた文化財に恵まれている。本博物館は、一人でも多くの人々に、私たちの郷土と県民共有の財産について知識を深めてもらうことをねらいとして設けられた総合博物館である。

規模と設備のあらまし

栃木県立博物館は、利用する人々の立場に立ち、使い易さを追求したシンプルな建設計画及び構造の建物である。館の前面には広さ約10.5haの近代的な栃木県中央公園が広がっており、地下1階・地上2階の鉄筋コンクリート造り、間口133m・奥行57m、延べ床面積11,159.8㎡の規模を有している。

常設展示はスロープ展示・総合展示・部門別展示の三本の柱から成り立っている。

ここでは人文系(考古・歴史・民俗・美術・工芸)、自然系(地学・植物・動物)のうちから自然系3部門に關する分野について紹介する。

展示について

1. スロープ展示

自然の様相が変化に豊んだ日光地方は、内外の多くの人々に親しまれている。この日光地方の自然について展示したのがスロープ展示である。ここは1階ホールから2階の総合展示室へ導入するために、全長72mのらせん形のスロープとし、神橋付近(標高600m)から白根山頂まで、約2,000mの間の動植物の垂直分布を展示して



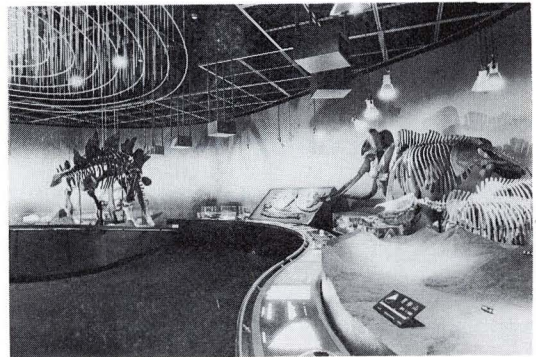
スロープ展示

あるのが特徴である。その中で、落葉広葉樹林・常緑針葉樹林や高山帯のお花畑をジオラマなどで展示するとともに、その地域に特徴づけられる動植物の標本・模型や生態写真などが順序よく配列され、歩きながら山中の雰囲気はひたれるように工夫されている。

2. 総合展示

ここでは、太陽系の誕生から今日の栃木が成立するに至った過程を、「栃木の自然と文化のあゆみ」というテーマのもとに、時間軸に沿って展開している。

まず、「太陽系の誕生」では、オートスライドやヘリオスタート装置を使って星の形成のしくみや太陽の姿を観察する。次の「地球の歴史」では、先カンブリア時代から第四紀までの各時代の代表的な化石類、県内産の岩石や化石類を配列して、系統的に理解を深めることができるよう工夫されている。

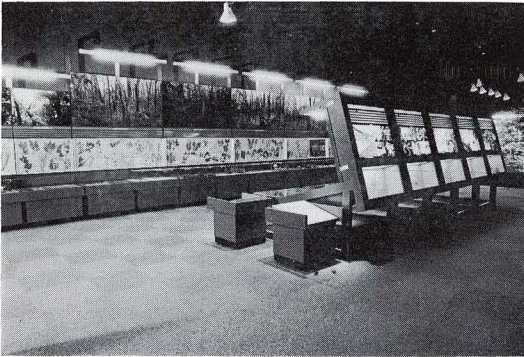


総合展示「地球の歴史」

3. 部門別展示

地学部門——ここでは「栃木の地形と地質」と「いろいろな岩石の世界」を主題とし、栃木県の山と平野の成立のしくみについて展示している。そこには県内各地から採集された動植物の化石類、多くの岩石類や鉱物類が展示されている。特に那須火山・塩原湖成層や関東ローム層等に関係する資料が主要な見どころとなる。

動・植物部門——地理的に、栃木県のものとして特徴づけられる生物が生態展示と分類展示の両面から説明されている。まず「栃木の動・植物」では、植生・森林・草原・水界や生物の分布等のコーナーで、それぞれの環境を構成する生物群が紹介されている。「いろいろな生物の世界」では県内産の標本を中心にした分類展示が展開されているので、私たちの周囲はいかに多くの生物で満たされているか認識を新たにするであろう。



部門別展示「栃木の動植物」

博物館活動のあらまし——開かれた博物館をめざして
 栃木県立博物館は各種の催物を通じて積極的に人々に働きかける博物館の完成をめざしている。その基礎的な調査研究は、3カ年～5カ年計画等、長期的継続事業として常時行い、資料の調査収集に努めている。その結果を企画展示で世に問うことはもちろん、学校教育・社会教育等との関係を重視した運営・各種の事業等が企画されている。さらに博物館の有する各種の情報を、広く公開・提供するシステムも整備されつつある。加えて、展

示の解説・各種学習会等の開催や広報活動の充実等を博物館活動の具体的な目標としている。

昭和57年度事業のあらまし（自然系のみ）

1. 企画展：脊椎動物の進化をさぐる
 （1983年2月26日～3月27日）
2. 講演会：脊椎動物の進化について
 （1983年3月6日）
3. 観察会：塩原地方の地質観察会
 （1982年11月14日）
 冬の水鳥の観察会 （1983年1月23日）
4. 写真展：第1回写真展・栃木に生きる鳥たち
 （1983年1月15日～30日）
5. 講座：栃木の自然 （1983年3月20日）



所在地 ㊟320 宇都宮市陸町2313—2

（栃木県中央公園内）

電話 0286（34）1311（大代表）

開館時間 9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休館日 毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始（12月25日から1月7日まで）

（副館長 武井 宏）

「からだの博物館」刊行される

東海大学人体科学博物館の展示内容をベースにした単行本が刊行されている。「からだの博物館—ヒトのからだを探る—」と題した本で、佐々木正五監修、中野昭一、永井彰編著により、昨年7月に東海大学出版会から東海科学選書の1冊として刊行されたものである。（定価1,200円）

編著者の永井・中野氏は同館の館長、副館長の職にあり、日頃の研究と教育活動の中から本書を作り出されたものであるが、人体に関する普及書としては非常に分かりやすく、評判が良いのもうなずかれる感じである。

〔名称変更〕

○北九州市立児童文化科学館

北九州市立児童文化センターは、12月25日の増築完成にともない、名称を変更しました。

〔人事異動〕

○瑞浪市化石博物館

新館長 伊野 重幸 前館長 小倉 靖之

〔住所変更〕

○群馬県婦人青少年センター ㊟（0272）23—1673

㊟371 前橋市文京町2—19—16（県立女子大学あと地）
 施設の改修工事のため、事務室が11月24日に移転。

あ と が き

○今回、科学博物館の映像、音響、展示及び展示品を扱っている会社へ広告の掲載をお願いしたところ、30社から協力が得られました。主な業者リストとしても御活用いただけたと思います。なお、締切り後に到着した分は、次号に掲載させていただきます。

会 員 館 園 の 消 息

〔新入会〕

○たばこと塩の博物館 館長 奥田 雅瑞

㊟150 東京都渋谷区神南1—16—8

㊟（03）476—2041～2

全科協ニュースの原稿募集

会員館の皆様からの御投稿をお待ちしております。

次号（3月1日号）原稿締切…2月9日

展示や教育活動について日頃考えていること、新しい展示品、日常の仕事上での苦労話やアイディア、特別展の企画その他、科学博物館の職員が読んで参考になりそうなことを、御執筆くださるようお願いします。